

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	バード	Lv.1:	バード	性別	
称号クラス				年齢	144※変更可
種族	ディーバ			境遇	没落
出自(効果)	任意			目標	扶養

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	13	13	8	9	9	14	6
ボーナス	4	4	2	3	3	4	2
クラス修正	1	1	1	0	1	1	1
他修正							
能力値	5	5	3	3	4	5	3

HP	50
MP	45
フェイト	4

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	護りの剣	至近	-1	14	0	3	2	-3	0
左手									
頭部									
胴部	レザージャケット					4			-1
補助	マント					1			
装身具	楽器								
能力値			5	0	3	0	5	7	10
スキル	ディーバ：デミゴッド						3		
その他									
総計(右)			4	14					
総計(左)					3	8	10	4	9
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	5			5	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	3			3	+ 2 d
アイテム鑑定	3			3	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
HPポーション	
MPポーション	
冒険者セット	
にく	
野菜	

現在重量： 11

最大重量： 13

所持金： 9605

預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ディーバ：デミゴッド	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 魔法ダメージ+3、【魔法防御力】+3。								
バッシュ	1	4	Xジャー	武器	単体	命中		
効果： 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SL]D								
ウェポンガード	1	4	DR直後	-	自身	自動	両・防中1回	
効果： 物理ダメージを受けるDR直後に使用する。物理ダメージ-[武器攻撃力/2]する。※スキル等で上昇している場合、それらを加え/2								
カバーリング	1	2	DR直前	至近	単体	自動	防中1回	
効果： 対象をカバーする。行動済でも使用可。未行動の場合でも行動済にならない。								
ディスコード	1	4	DR直前	20m	単体	自動	1回/R	
効果： ダメージ+[SL]Dする。※自身対象不可								
バスカー	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果： プリプレイ時、【精神】*100G取得								
バラード	1	6	Xジャー	20m	範囲	呪歌	-	
効果： 物防・魔防どちらか選択。選択した防御力を+[SL*2]する								
ガルドル	★	4	参照	-	自身	自動	-	
効果： 「分類：呪歌」の「対象：範囲」を「対象：範囲□選択□」へ変更する。								
エチュード	1	4	Xジャー	20m	範囲	呪歌	-	
効果： シーン終了まで、対象が行う攻撃のダメージに+[SL*2]								
アスレチック	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果： 登攀・跳躍判定+1D								
ファーストエイド	1	-	Xジャー	至近	単体	器用	-	
効果： 難易度10の器用判定。成功で戦闘不能を回復し、HP1にする。対象は行動済身となる。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

出身：ダイワ群島国想定

現在の土地から遠く離れた土地で生まれた彼は、巫神へと至る以前から人を愛おしく思うような人外に近い精神をなぜか有しており、その土地に住まう人間たちのため、剣の腕を磨き、主に魔物狩り等を行っていた。

そうして生活しているうちに巫神へと至ったが、その土地の人々からは、誰が言い出したか神だのと呼ばれ信仰に似たような慕われかたをしていた。本能的には、頼ってもらえるのは嬉しいので、なんでも頼みを聞いていたが、やれ作物が育たないだの気象が不安定だの、彼の力で解決できる範疇を大きく超える頼み事()が増えた結果、神の名を騙る詐欺師として土地を追われるだけでなく泉に沈められかけたところ、何とか命からがら盗み逃げ出した。

元の土地から大きく離れるため、長く放浪した先に現在の勇者の伝承?がのこる村に行き倒れたところをヒューリンの村娘に助けられ、彼女からの提案もあり、以来、村娘の家に居候のような形で村に住み着いた。

村に害のある獣をこっそり退治したり、村娘と共に花を愛で、彼女の好きな詩歌を歌い過ぎず穏やかな日々を過ごしていた。その時は、博愛や友愛であったかはたまた別の感情であったのかはわからなかったが、彼女の没後、ようやくそれが情愛であったと自覚した。そのため没後(何年たっているかは決めていない)も彼女の愛した村と育てていた花の手入れのため村に住み続けている。

現在も村に害のある獣をこっそり退治したり、花の手入れをする生活は変わらないが、村で親を失ったり、捨てられた子供たちを引き取り育てている。また村の一角で勇者の伝説や彼女に対する愛などを歌にし、奏でている。

村の子供には、忙しい一面を見せることが無く、空いた時間はずっと歌を奏でているため、暇人だと思われる可能性が高い。

以前の土地で殺されかけたが、彼らの事はもちろん人を憎んでおらず、むしろ村娘と過ごすうちに自分の言葉数が少ないことを知ったため、彼の中で以前の土地での出来事は、不運なすれ違いとして消化されている。

そこなりの年月、魔物や獣を狩っているが、固有名称がつけられるものや伝説が残るタイプの魔物討伐の実績があるわけではない。

そのため、実戦においては、多少腕に覚えがある程度なので、半神へと至った理由の大部分は人への愛や慈しみであると思われるやばい奴。そんな彼であったが故か人が愛おしく思うことやお願いごとを割と何でも聞いてしまうという基本スタンスはあまり変わらなかった。